

教員データ

教授
母性看護学
野口 眞弓
のぐち まゆみ

学位	博士（看護学）聖路加看護大学
学部／大学院	学部／大学院
担当授業科目	<p>【看護学部】</p> <p>母性看護学概論 母性看護学援助論 母性看護学技術演習 母性看護学実習 卒業研究</p> <p>【大学院（修士課程）】</p> <p>看護研究Ⅰ（概論） 看護研究Ⅱ（量的研究法） 母性看護学特論 ウィメンズヘルスト論 周産期ケア開発特論 母性看護学演習 特別研究</p> <p>【大学院共同看護学専攻（博士課程）】</p> <p>生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究</p>
研究テーマ	<p>妊娠期の口腔ケアの開発に関する研究 マタニティ・ヨーガに関する研究 育児のソーシャルキャピタルに関する研究</p>
主要所属学会	日本看護科学学会 日本看護研究学会 日本助産学会 日本母性衛生学会 聖路加看護学会
主要著書・論文	<p>【著書】</p> <p>野口眞弓(2022). 母性看護における看護過程. 中村幸代編, 看護の</p>

現場ですぐに役立つ母性看護のキホン. P.115-130, 143-149. 東京, 秀和システム.

野口眞弓 (2021). 家族計画. 堀内成子, 片岡弥恵子編, 助産診断・技術学 I (助産学講座 5). p.281- p.307. 東京, 医学書院.

野口眞弓 (2021). 乳房管理. 我部山キヨ子, 藤井和行編, 助産診断・技術学 II [2] 分娩期・産褥期 (助産学講座 7). p.333- p.354. 東京, 医学書院.

野口眞弓 (2007). 母性と看護. 長谷川雅美, 林優子編, 疾病と看護過程実践ガイド (改訂版). p.900-p.933. 東京, 医学芸術社.

野口眞弓 (2007). 母性看護で用いられる理論. 横尾京子, 中込さと子編, 母性看護学: 母性看護学実践の基本 (ナーシンググラフィカ 30). p.53-p.70. 大阪, メディカ出版.

野口眞弓 (2007). 家族計画. 堀内成子編, 助産診断・技術学 I (助産学講座第 5 巻). p.271-p.299. 東京, 医学書院.

野口眞弓 (2007). 女性のこころの援助. 村本淳子, 森明子編, 母性看護学概論 (第 2 版). 東京, 医歯薬出版.

【論文】

下里志寿子, 野口眞弓(2024). 帝王切開を受ける女性の体験における覚悟と納得のプロセスの測定尺度作成の試み. 母性衛生, 64(4), 512-521.

清水美代子, 野口 眞弓, 鎌倉 やよい(2023). 就労介護者のインタビュー結果からみた就労を阻害する要因と継続する要因. 日本看護科学会誌, 43, 252-260.

浅岡みゆき, 内藤直子, 野口眞弓 (2020). 周産期における乳失禁の変化—骨盤底筋力および QOL との関係—. 岐阜保健大学紀要, 1, 70-76.

Noguchi M , Tagaya A, Sakoda A, Komatsuzawa H, Fujiwara N, Sugai M (2016). Effectiveness of Oral Health Education Program on Prevention of Periodontal Disease in Japanese Pregnant Women. *Open Journal of Nursing*, 6, 282-293.
<http://dx.doi.org/10.4236/ojn.2016.64029>

野口眞弓(2015).マッピングによる看護カリキュラムの可視化.看護教育, 56,1176-1181.

Fujiwara N, Tsuruda K, Tsuruda K, Kato F, Odaki T, Yamane N, Hori Y, Harashima Y, Sakoda A, Tagaya A, Komatsuzawa H, Sugai M, and Noguchi M(2015).Significant Increase of Oral Bacteria in the Early Pregnancy Period in Japanese Women.

Journal of Investigative And Clinical

Dentistry. [http://dx.doi.org/ 10.1111/jicd.12189](http://dx.doi.org/10.1111/jicd.12189)

池田輝政, 野口眞弓, 佐々木幾美 (2014) . 学位授与方針から設計するカリキュラム・マッピングの提案と実践. 大学・学校づくり研究. 6, 29–40. http://emspd.meijo-u.ac.jp/publication/journal06/6_03.pdf